

平成30年度市政懇談会会議録

開催日時：平成30年5月8日（火） 午後6時00分～午後7時00分

開催場所：緋の郷円形交流館 多目的ホール

参加者：206人

市側出席者：五十嵐市長、吉田副市長、徳江教育長

池田総務部長、千吉良企画部長、大澤財政部長、新井市民部長、小保方環境部長、
町田健康推進部長、須永福祉こども部長、栗田長寿社会部長、出崎経済部長、
笠原建設部長、六本木都市計画部長、宮野公営事業部長、西川水道局長、
大澤消防長、高尾経営企画部長（市民病院）、斉藤会計管理者、下城議会事務局長、
光山監査委員事務局長、村井教育部長

1 開 会 司会進行（企画調整課長）

2 特別職の紹介・市職員（部長職）の紹介

3 市長あいさつ

皆様、こんばんは。夜分で大変お疲れのところ、また、小雨模様でお足元の悪い中、このように大勢の皆様にご参加いただき、誠にありがとうございます。

この市政懇談会は、年度当初に、どのような方向で行政を進めていくか、主だったものについてご報告をさせていただき、また、皆様からご意見等伺いながら、安心安全な伊勢崎を目指していこうという趣旨のもと、開催をしているものでございます。

早速ご報告をさせていただきたいと思いますが、スクリーンをご覧くださいながら説明をさせていただきたいと思いますので、よろしくをお願いします。

4 重点政策の概要

(1) 平成30年度重点政策について <市長説明>

(2) 質疑応答 <特別職及び全部長職>

※質問及び回答の要旨を掲載しています。

◆自主返納制度の拡充について

【質問】

民生児童委員を仰せつかっておりますが、市長から平成30年予算概要のご説明をいただいたと思いますけども、基本的に伊勢崎をもっと元気にもっと豊かにもっと安全にというスローガンの実現に向けて、大変ご期待をしております。来年には平成天皇がご退位され、新元号になり、2020年には東京オリンピック、パラリンピックが開催されます。

また、高齢化、少子化が加速され、国の研究機関等でも2045年には、市町村人口がだいぶ減り、群馬県においては吉岡町が唯一増加し、太田市と伊勢崎市は減少率がかなり少ないという中で、第2次伊勢崎市の総合計画に基づく将来都市構想に向けた市長のメッセージをいただけたらと思います。

次に、お聞きしたいのは、高齢者による交通事故の増加が問題となっておりますが、運転

免許証の自主返納制度についてお聞きいたします。伊勢崎市では、運転経歴証明書の発行に係る手数料の補助制度があると思いますが、高崎市のように免許を返納された方が通院や買い物等に利用できる交通利用券などの、サービス事業の拡大等ありましたらお聞かせいただければと思います。

【回答】（市長）

お尋ねの1点目の質問でございますけども、ご指摘のとおり、厚生労働省の研究機関であります国立社会保障・人口問題研究所の想定では本市も例外ではなく、2045年には9%強人口が減るだろうというような予測が出ています。そのような中、本市が目指しておりますのは、将来に渡って人口が減らないまちづくりです。昨年暮れに総務省が発表しました移動人口調査の結果によると、本市は転出者よりも転入者が増加しており、転入者の増加数が群馬県内35市町村で一番ございました。この状態を引き続き維持してまいりたいと考えており、本市で生まれ育った子供さんが本市に住んでいただくことはもちろんですが、医療や福祉、あるいは雇用等をさらに充実させることにより、市外や県外から転入する人たちを増やしていきたい、と考えております。来月頃には、境地区に自動車関連製造工場の従業員用の500室の単身寮が完成をいたします。東京の工場から約500人の従業員がこちらに移動してこられるとも聞いており、2045年になってもこの21万という人口は最低でも維持していきたいと考えております。

2点目の交通弱者対策、いわゆるご高齢者への対策の関係でありますが、これは担当部長から説明いたしますが、現在、65歳以上の方に対し、一定条件はありますが、年間24枚だったと思いますが、タクシー券を発行させていただいております。県内他市では、デマンドバスなど運行形態により実施しておりますが、民間事業者においても大変頑張らせていただいておりますので、貴重な交通手段であるタクシーなどの民業を圧迫することがないように、充実に向けて検討を進めて参りたいと考えております。

【回答】（環境部長）

免許証の自主返納の件でございますけども、運転経歴証明書を発行した場合にその手数料を助成するという制度でございますが、今年度あるいは昨年手続きされた方に対し、過去1年間については、申請していただければ補助をするという制度でございます。

また、高崎市や前橋市は有料という形をとっていますから、助成券等を出していると思いますが、本市ではコミュニティバスについては65歳以上の高齢者の方は無料となっておりますので、助成券等はございません。

しかしながら、今年度からの事業になりますが、運転免許証を自主返納した場合には、お店などで買い物した場合には特典が得られるような制度を考えており、実施の際には広報等でお知らせすることになると思いますのでよろしくお願いします。

◆災害時における動物の同行避難について

【質問】

去年、一昨年と3年間続けて同じ質問をさせていただきたいと思いますが、まず一つ目の提案ですが、動物愛護ということで、群馬県の獣医師とタイアップして県内の各小学校へ訪問し、動物愛護のふれあい活動を実施していると思います。その活動が継続されているのはすばらしいと思いますが、そのふれあい学校について子供に聞いても、あまり記憶

に残っていないという答えが返ってくるが多く感じています。

時間と予算を使うのであれば、動物愛護センターで譲渡前講習なども実施していますが、パソコンや映像などを使った短時間の学習のプログラムを中学校の道徳や自主活動のような時間に取り入れれば、多感な時期に印象に残るものになるのではと思います。

もう一つ質問ですが、災害時の動物の同行避難についてです。去年の10月に避難所運営マニュアルが公開になっております。これはすばらしいと思いました。この中を見ますと、ペットについても記載されておりますが、ペットの受け入れに関しては、帯同ではなく同行避難と記載されており、市の対応として盲導犬、介助犬、聴導犬等人間の生活をサポートする犬たちは生活する区域に入っても良いと、それ以外のペットは、別のスペースに避難するとの方針が分かりましたので、それなりに備えなければと思っております。ただ、マニュアルには、居住する地区の避難所にペットを連れて避難した場合の注意事項などをもう少し丁寧に書いていただければと思います。例えば、広瀬川が決壊した場合に我が家でしたら伊勢崎高校に避難することになっています。犬を連れて避難した場合に、車があればその中で過ごせますが、車が無い場合では、具体的にどのような管理になるのか、具体的なイメージが持てるような返答をいただければと思っています。

【回答】（教育長）

動物愛護の問題について、お答えをさせていただきます。大変良いご指摘をいただいた訳ですが、学校教育だけで動物愛護や生命の尊重を、1時間、1週間の授業で行うことは不可能でございます。今いただいたような意見に基づいて、実際に子供たちが生命を尊重したり、小さな動物に愛情を持つていくためには、ぜひ学校教育をきっかけとしてご家族の皆様にも協力していただいたり、地域の皆様にも子供たちが成長していく過程で協力をいただくことが大事だと考えています。学校教育はそういうもののきっかけであったり、あるいは、知的に物事を理解したりというようなことであり、習慣化するには様々な方の協力が必要であります。

学校教育でいつも申し上げていることは、学校、家庭、地域との協力の必要性のことであり、豊かな感情を育てていくためには、学校教育だけでは限界があり、それぞれの良さを出し合って育てていくのが教育だと考えています。すばらしいご意見ですので、今後とも学校教育にご協力をいただければありがたいと思っております。よろしく願いいたします。

【回答】（総務部長）

避難所でのペットの扱いについてお答えさせていただきます。昨年度、避難所の運営マニュアルを市で作成して、ホームページにも掲載しています。災害が起こった際に、避難所をどのようにして立ち上げるのかということなどが記載してあります。基本的に、各行政区や自主防災組織の方が中心になって運営をすることになります。また、マニュアルの中にはペットの受け入れ等の項目があり、盲導犬、介助犬、聴導犬などの補助犬については持ち込みすることが出来、それ以外のペットについては、生活場所には持ち込むことが出来ないこととされています。

一般的な生活場所といいますと体育館が想定され、それ以外の場所では、学校であれば教室や校庭等が思い浮かびますが、避難所により状況は違ってくものと考えております。避難所の運営については、運営委員会というものがあり、そこで決めていただくことにな

りますが、マニュアルの最後の方には、ペットの飼育ルールについての例示なども記載させていただきます。

ペットの飼い主の皆様に対しては、必ず運営委員会の指示に従うことやペットはケージに入れること、清潔を保つこと、餌付けを行うこと、名札をつけることなど、この部分については、配慮して細かく記載をさせていただきます。場所によって状況が違いますが、各運営委員会の方針に従ってペットの飼育を守っていただけるようにマニュアルを作ったところでございますので、ご理解の程よろしく願いいたします。

◆赤い羽根・緑の羽根、華蔵寺公園駐車場について

【質問】

伊勢崎市だけの問題ではないということであればお答えは結構ですが、募金した方に緑の羽根、赤い羽根を配布していますが、この羽根はいらないのではと思います。募金に協力することは構わないのですが、羽根を作る費用がもったいないと感じています。

もう一つ、華蔵寺公園ですが、これだけの市であれだけの施設を持っているというのは、誇りに思っていていいと考えております。現在では、市外県外から多くの方がお見えになっていると思いますが、駐車場が少ないのではと感じています。整備するには多くの予算が必要になると思いますが、子供たちが来園したときに安心して駐車できるようになればいいと思います。

【回答】（福祉こども部長）

羽根の関係の質問ですが、毎年赤い羽根や緑の羽根にはご協力をいただいているところでございます。市でこれを廃止することは難しいと思っています。ただ、ご協力いただいた募金にはそれぞれ使い道がございまして、全国規模でやっておりますので、今後どう変えていくかというのはまた問題があると思いますので、市においてもそういう意見があるということで承知させていただきます。これからは使い道等を皆様にお知らせできればと考えており、ご理解をいただけるようにしたいと思います。

【回答】（市長）

補足をさせていただきます。

募金は今まで通りやっていただいて、羽根は不要ではないかというご指摘かと思えます。これについては、群馬県の共同募金会で実施をしているものですから、そういう貴重なご意見があったということをしかり県の共同募金会にも伝えさせていただき、県の判断を仰ぎたいと考えております。

その後の対応状況

羽根が不要とのご意見をいただいたことから、5月9日に共同募金会伊勢崎市支会の窓口である、伊勢崎市社会福祉協議会を通じて、群馬県共同募金会に意見を伝えました。

【回答】（都市計画部長）

華蔵寺公園の駐車場の問題ですが、華蔵寺公園の北側に、以前から華蔵寺公園の駐車場として民間から借り受けていた駐車場がございましたが、昨年、それを購入いたしまして、華蔵寺公園の駐車場として活用が出来るようになりました。また、先日の連休のイベント

時の駐車場としては、周辺に所在する企業に協力をいただいて、臨時の駐車場として活用をさせていただいているところですが、皆様のご協力を得ながら、賑わいのある華蔵寺公園を運営出来ればと考えておりますので、ご理解いただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

【回答】（市長）

補足をさせていただきますが、ご指摘のとおり華蔵寺公園は、子供たちをはじめご家族連れにも人気が高く、毎年群馬県内でゴールデンウィーク中の人出が一番多い公園であります。群馬県内のみならず、埼玉北部等から、あるいは、東京方面からもバスで来られるという方たちもおられ、入場者数十万人というような数字が毎年出ております。そのような状況ですから、担当部長からご答弁申し上げましたとおり、お借りできる駐車場は全てお借りをしている状況でございます。公園からの距離が離れてしまい、歩く距離が増えてくることとはなりますが、これからも工夫を重ねまして、出来るだけ多くの皆様にご利用いただけるよう検討していきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

◇閉会あいさつ（市長）

皆様には本日、夜分で大変お疲れのところ、また、2、3日前と打って変わって寒い日になりましたが、このように大勢の皆様にご参加をいただき、誠にありがとうございました。

また、ただいま質疑応答等でも貴重なご意見を頂戴して本当にありがとうございました。新年度がスタートいたしましたけれど、今年度においても皆様のご指導ご意見を伺いながら、引き続き元気で豊かで安全なまちづくりを目指してまいりたいと思っております。

どうぞ、これまで同様のご指導ご支援ご協力を心からお願いを申し上げまして、ご挨拶とさせていただきます。本日は大変ありがとうございました。

5 閉 会（企画調整課長）